

目指す学校像					
<p>◆就労を目指し、自己実現のできる学校【生徒】 ◆挑戦し続け、成長の喜びと感動のある学校【生徒・職員・保護者】 ◆地域や企業と共に、よりよい社会創りに貢献できる学校【地域・企業等】 <R4 スローガン> 『 Be ambitious! (大志を抱け) 』</p>					
昨年度の成果と課題	重点項目 (学校組織目標)	重点目標	達成状況		
<p>・新型コロナウイルス感染症対策委員会を定期的に実施し、国及び県の感染症対策指針をもとにした対応策の検討や体制の整備を行うことができた。今後も定期的に委員会を実施し、感染状況に応じて迅速に対応していくことが必要である。 ・毎日の健康チェックの徹底に向けて保護者と連携して取り組み、感染症の拡大防止に成果をあげることができた。 ・生徒の自己コントロール意識の育成をねらいとした取り組みや、生徒支援の会議を定期的に設け、実態を多面的にとらえ、生徒の悩みの早期発見や適切な支援に努めることができた。外部の関係機関との連携が必要な生徒についても、スムーズに対応することができるよう、今後も支援会議等で支援体制の確認と整備をしていく必要がある。 ・働き方の改善に向けた様々な取り組みを実施し、平均残業時間の減少や業務の効率化が図れるようになった。今後は、個人が意識して取り組んでいくための意識改革が必要である。</p>	<p>安心・安全で活力ある温かな教育環境づくりの推進【安心・安全】</p>	<p>①安心して学習や生活ができる教育環境の整備 ②一人一人に応じた生徒指導と健康管理 ③教職員の働き方改革の推進とチーム力向上</p>			
<p>・リモート学習（各教科学習）や専門教科の学習指導において、ICTを活用する機会が増え、指導場面において有効な機器の活用を検証し、実践することができた。生徒の機器活用の能力も向上し、今後はこれまで以上に指導に活かせる情報の収集と共有・研修が必要とされる。 ・主体的・対話的で深い学び等新学習指導要領を踏まえた授業づくりを推進してきた。日々の学習を通して、様々な課題に適切に対応することができる能力を育成できる授業づくりを実践できるよう「主体的・対話的・深い学び」の視点で授業の改善を図っていく必要がある。 ・寄宿舎において「生活スキル検定」に全員が取り組み、自己管理能力の育成を図ることができた。さらに今後は、自治会活動や委員会活動等、生徒主体の活動を積極的に取り入れ、生徒が活躍できる場を増やしていきたい。</p>	<p>職業的自立を見据えた個に応じた体系的な教育の推進【体系的な教育】</p>	<p>④自立と社会参加を踏まえたカリキュラムマネジメント ⑤「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進 ⑥寄宿舎における自己管理能力の向上</p>			
<p>・学校行事については、感染症対策（参加人数や場所の制限）を講じて実施、または、感染状況により代替の行事に振り替えて実施することができた。これまでの取組で得られた工夫や改善点を活かし、生徒主体の学校行事が実施できるよう、取組んで行く必要がある。 ・昨年度から学校見学と教育相談（中3対象）を集団で行う形態から個別での対応に変更して実施している。個別で実施するメリットを生かし、参加者（生徒・保護者・学校関係者）に応じた対応ができるよう体制を整える必要がある。また、ホームページの活用や小学校や中学校へのPRなど本校の特色や取組が伝わる工夫や改善を継続して行い、志願者数確保に繋げていきたい。 ・企業との連携により100%の就労率を達成することができた。今後は企業と連携し、生徒一人一人の職業的自立に向けた体系的な指導を意識して取組んで行く必要がある。</p>	<p>社会に開かれた魅力ある教育の推進と本校教育の理解啓発【理解・啓発】</p>	<p>⑦生徒主体の学校行事への取組 ⑧本校教育の理解啓発と本校志願者数の向上 ⑨企業との連携強化による進路指導の充実</p>			
<p>・社会貢献活動（地域の清掃、エコキャップ収集、被災地への土のう袋提供、募金活動）を生徒会や光陽祭実行委員会が主体となり、年間を通して実施した。光陽祭での活動結果の発表や、地域貢献活動を通して社会に貢献する気持ちを育てる取組が成された。 ・校内実習や現場実習を学年ごとに系統性を踏まえて実施し、実体験をもとに職業や働くことに関する学習に繋げることができた。実習での体験だけでなく、各教科での学習や部活動等の活動を通して自己の理解や、自分自身の将来の生き方について考え、社会に貢献できる人材を育成できるよう、指導計画や目標を見直し、改善を図る必要がある。</p>	<p>社会の創り手に必要な豊かな人間性を育む教育の充実【豊かな人間性】</p>	<p>⑩相手を思いやる豊かな心、望ましい勤労観、職業観の育成 ⑪コミュニケーション能力の育成 ⑫ボランティア活動、スポーツ・文化芸術活動の推進</p>			
評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	課題及び次年度への改善策
教務部	グラウンドデザインの実現に向け、各部、学年と連携を図りながら効率的な学校運営に努める。	経営企画会での検討と実施、部や学年間との連携、早期立案のための業務の進行管理及び改善シートを活用した見直し改善を図る。	①～⑫		
	基本研修や現職研修、衛生委員会による研修等を活用し、チーム力の向上を図るとともに、コンプライアンスの推進に努める。	授業研を活用した授業力の向上、人権研修や出張報告会、若手教員によるコンプライアンス及びチーム力向上のボトムアップ研修、衛生委員会によるチームビルディング研修を実施する。	③		
	卒業後の視点を踏まえたカリキュラムマネジメントに努める。	専門教科における3つの視点（基礎的・基本的な力の習得、主体的に働く力の育成、適切な目標設定と評価）の実践及び検証を進め、教育課程検討委員会にて教育課程編成や評価、改善を図る。	④⑤		
	志願者数の確保に向け、学校の情報発信の充実に努める。	本校の魅力伝えるためのリーフレットの配付や学校紹介、行事や本校生徒の取組についてホームページに掲載する。 小学校段階から個別に学校見学を実施し、本校受験に関する情報をホームページにて発信する。必要に応じ訪問やリモートでの学校説明会を実施する。	⑧ ⑧		
総合支援部	生徒一人一人の実態や思いを把握し、学年や関係機関と連携を図りながら、校内支援の推進に努める。	トーキングタイム、あおぞらトーキングを計画的に実施し生徒理解に努める。 校内支援会議、関係機関との支援会議、学校医との支援会議等を実施する。 標準検査を実施し、生徒の認知に関する実態を客観的に把握する。結果は、個に応じた支援や学習指導に生かしていただけるように情報共有をする。	②		
	特別支援教育のセンター的機能の促進と充実に努める。	学校見学や交流学習等の情報の発信を行いながら、本校への理解を深めてもらう。 高等学校を中心とした巡回相談の充実とニーズに応じた支援への対応に努める。 巡回相談で得た知見について校内で共有したり、標準検査に関する研修会を実施したりして、個々の教員の専門性の向上の一助としていく。	⑧		
	特別支援教育や本校教育に対する理解啓発に努める。	学校見学では、事前に担当者との打ち合わせを実施し、活動内容・方法・資料について十分に共通理解を図りながら準備する。来校者アンケートの結果を生かし、ニーズに応じた説明案内を行えるようにする。 学校間交流や地域交流では、ホームページを利用して教育活動の情報発信を行う。また、校外でのマルシェでは本校紹介のパネル展示を行うなど、本校への理解が深まるような取り組みを行う。	⑧		
	心のバリアフリーにつながる交流及び共同学習を工夫する。	学校紹介や専門教科の紹介物の展示・メッセージ交換をとおして本校生徒や活動について具体的に知らせることで、近隣学校や地域の方々とお互いを認め合えるような交流を行う。 ホームページを利用して活動の情報発信に努める。	⑩⑫		
危機管理部	防災教育の充実に努める。 地域・関係機関と連携し、より安全で実情に沿った防災訓練のあり方を検討する。	防災マニュアル及び防災対策組織や役割分担の見直しをし、コロナ禍を踏まえた防災訓練を実施する。 地域と連携した避難所開設運営訓練及び防災連絡会議を実施する。	①②		
	防災管理の徹底及び組織活動の充実に努める。	防災倉庫内の備蓄品の点検と整理整頓をし災害時の早急な対応に備える。 毎月安全点検を実施する。 危機管理マニュアルのシミュレーションを実施する	①		
情報メディア部	ICT環境の整備を行い、授業や校務で有効に活用できるようにする。	リモート学習やオンライン会議を円滑に実施できるように、カメラやパソコン、集音マイク等のICT機器を計画的に整備する。 校内LANやWifi環境の整備を行い、ストレスフリーなネットワーク環境の実現に努める。	①③⑤		
	ホームページの充実に努め、アクセス数の増加につなげる。	迅速に更新をすることで、よりタイムリーな情報発信に努める。 動画の本数を増やし、本校の取り組みをより具体的に発信する。	⑧		
	生徒や教職員のICT活用力向上を図る。	授業や校務で活用できるアプリを導入し、校内研修を実施する。 授業や研修会を通して、生徒や教職員の情報モラルの意識を高める。	①		
		生徒が実態に応じて、情報関係の各種検定を取得することができるよう計画的に支援する。 定期的呼びかけ、就学奨励費によるICT機器購入を推進する。	①⑤		
学習・研究部	道徳教育における全体計画の作成し、学年ごとに、ジョブスタディの中で重点的に指導すべき道徳の内容について明らかにする。	道徳教育における全体計画の作成する。 学校課題研究により道徳の授業を実施する。 専門家による教職員向けの研修会を開催する。 ジョブスタディにおける年間指導計画の見直し、改善を図る。	①②⑤		

<p>専門教科について、3つの視点（基礎的・基本的な力の習得、主体的に働く力の育成、適切な目標設定と評価）に基づいた指導の実践・検証をする。</p>	<p>決まりを守り、安全に作業に取り組むための工程を明確化する。 作業環境の整備・作業内容の見直し及び基礎的なコミュニケーションの場面設定による習慣化を図る。 社会情勢に沿った学習内容および作業内容の検討・実施をする。（生徒によるデータ管理） 生徒との対話を重視し、具体的な目標づくりや自己理解を深めるための振り返りを実施する。 主体性を育むための役割分担および場面設定をする。 生徒主体の発案による社会貢献活動の計画・実施をする。</p>	<p>①④⑤⑦⑩⑪</p>
--	---	---------------

	ICTを活用した生徒主体による授業実践の推進を図る。	ICTの機器の活用についての情報共有を図る。(職員向けICT研修の実施、ICTを推進するための機器の校内環境の整備) 年間指導計画の教材教具へのICT機器の位置づけを明確化する。	①②⑤		
	働き続けるための体力の向上及び地域社会との連携による部活動の充実を図る。	日々の充実した部活動の実施に向けた活動の検討や見直し、新型コロナウイルス感染症対策を含めた顧問会議を実施する。	①②⑫		
就労指導部	将来的な自立に向け、本人が主体的に自分自身の進路を選択・決定できるよう、進路指導及び支援の充実を図る。	生徒の希望や特性に基づいた就労先及び現場実習先を選定するため、ICT機器やWEBを活用し、事業所の新規開拓に努める。	⑨		
		キャリアパスポートを活用し、生徒の自己理解を深め、そのキャリア発達を支援する。	⑨⑩		
		「事業所に求められる人材」という視点をもった職業教育を実施する。	⑨		
	関係機関との連携を図り、卒業生支援の充実を図る。	卒業生の状況について関係機関(事業所、生活支援センター等)との情報共有を図り、卒業生の職場への定着を促進する。 必要に応じて卒業生支援会議を実施し、卒業生の継続的就労を支援する。	⑨⑩		
保健指導部	学校医等との連携を図り、新型コロナウイルス感染症予防対策の徹底を図る。	学校医等と連携を密にし、感染症予防対策の確認・徹底に努める。	①		
		毎日の健康観察を強化し、個に応じた保健教育を実施する。	①②		
		給食の配膳(衛生面)及び摂食時の指導を徹底し、感染予防に努める。	①②		
		定期的な校内の消毒を実施し、感染予防に努める。	①		
	学校安全の充実に努める。	救命救急講習を実施し、教職員の危機管理意識の向上に努める。	①		
		感染症対策や衛生管理、食物アレルギー対応を徹底し、安全・安心な給食の提供に努める。	①		
		掃除用具の管理や生徒・職員による清掃、教室の換気を行い、学校安全の充実に努める。	①		
	生徒の実態を把握し、生徒に応じた主体的健康管理能力の向上に努める。	学校ホームページを活用し、健康に関する情報発信を行い、健康意識の向上に努める。	②⑧		
		「食に関する調査」を行い結果を分析し、個に応じた食育指導を工夫する。	②		
		自己の健康課題の気づくことができる健康診断の事後指導により、主体的健康管理能力の向上を図る。	②		
生徒指導部	予防的な生徒指導実践のための、早期段階での情報収集や生徒の心情の可視化、保護者との連携を図る。	ミーティングによる早期段階での情報収集をする。	②		
		生徒自身による気持ちの自己コントロール意識の育成をねらいとしたハートバランスシートを活用する。	②		
		学校生活のきまりの見直しをすすめる。	②		
		インターネット(SNS)に関する指導の充実を図る。	②		
	交通安全や公共マナーについて生徒自身が考え、行動できる通学指導を実施する。	公共の場所(電車・駅等)での安全・マナーの向上を目指した登下校指を実施する。 天候に対応した登下校指導を実施する。 交通安全指導を実施する。	①②		
渉外部	保護者との連携を密にし、新型コロナウイルス感染症拡大防止を踏まえた計画的な委員会の開催とスムーズな調整・運用を図る。	本部役員、学年委員、常設委員同士との連絡を定期的にとり、新型コロナウイルス感染症拡大防止を踏まえた各委員会の開催の調整と協議内容の確認をし、共通理解を図る。	①⑧		
		リモートでの会議・研修会等ができるよう環境を整備する。	①⑦⑧		
	新型コロナウイルス感染症拡大防止を踏まえたPTA事業内容の工夫と保護者参加率の向上に努める。	ニーズ及び新型コロナウイルス感染症拡大防止を踏まえたPTA事業内容・方法(meetのみでなくzoomの活用)の工夫(安全を考慮した)と参加率向上を目指す。	①③		
		PTA行事のホームページ掲載や広報誌等による積極的な情報発信をすすめる。	③⑧		
	校内及び茨特P連や茨知P連、全知P連や関知P連等研修会への参加と報告及び情報交換を図る(リモートを含む)	保護者が参加できるインフラを整備し、リモートを含むPTA諸団体行事や研修会等への計画的な参加と報告及び情報交換を実施する。	①③⑩		
	外部団体主催の行事への参加をとおして本校の教育活動の理解啓発を図るとともに体力の増進や芸術の造詣を深める	ナイスハート、高等学校文化連盟、特体連スポーツ大会、特教研等では主催者の意向を踏まえ新しい方法の参加方法の浸透を図る。	⑧⑪⑫		
舎務部門	学校や家庭と連携し、情報の共有を図りながら、実態や課題に即した指導を行う。生徒の心に寄り添うとともに、課題解決のために、自ら考え主体的に行動できる力を身に付けられる支援を継続して行う。	個別の指導計画(継続表及び指導記録)を作成し、学校・家庭と連携した指導・支援をする。 課題や目標を生徒と指導員で共有できるサポートレシピを活用し、課題解決のための支援を日常的に行っていくとともに、生徒の心の動きや変化等を把握するため、トーキングやおしゃべりタイムを適宜実施する。	①②		
	生活スキル検定やマイタイムを個に応じて取り組み、生活技術力の獲得や定着等、主体的自己管理能力の育成に努める	寄宿舎生全員に対し、生活スキル検定を計画的に実施するとともに、マイタイムやマイスタイルを活用することで一人一人が主体的に生活する習慣を身に付ける。	②④⑥		
	自治会活動や棟別活動をとおして、生徒同士がかかわる場面を設けることで共同・協働活動の充実を図る。	生徒が自発的、主体的に取り組むための活動内容について検討する。	⑦		
		棟別活動や日々の生活場面では、生徒同士が協力し交流できるような場面を設けることで、協力する心や思いやりの心を育てる。	⑩⑪		
	集団の一員として自覚をもち、主体的に健康や安全を意識した生活習慣を身に付けられるように指導するとともに、寄宿舎の衛生管理や環境整備に努める。	登校、食事前後の消毒等による衛生管理や、密集を避けるための日課調整を行う。	①		
		衛生管理に関する掲示物やチェック表を活用することで、基本的な感染対策や基本的な生活様式を生徒が実践できるよう意識の向上を図り、感染防止や予防への対策を徹底する。	①⑥		
事務部門	施設に起因する学校事故を防止する。	施設が安全な状態を常に意識できる点検内容を作成し、実施することで不具合等の危険箇所を早期発見、改善することで、学校事故を防止する。	①		
	学校景観の維持、安全性を確保する。	芝や植栽等の校地について管理計画を立て、気候等の変化に応じた対処を加え実施し、整った景観を維持することで、安全性を確保する。	①		
	設備の故障等による学校生活への支障を予防と建物・設備の老朽化に対する保全を図る。	建物の経年劣化等の現状把握と今後の予測を踏まえ、施設の中期的な整備計画を立てることで、躯体への影響を最小限に抑える。	①		
		設備の耐用、経過年数及び使用状況等から、劣化や故障の可能性を予測し、予防修繕を進めることで学校生活への支障の予防、設備の老朽化に対する保全を図る。	①		
1年	体温測定や体調チェックをとおして、感染症予防に関する知識や健康的に過ごすための衛生管理を身に付ける。	毎日の体温・体調チェックを実施し、自己の健康な状態を把握できるようにする。また、身だしなみや歯磨き、手洗いを習慣化し、自己管理の基礎を学ぶ。	①②⑥		
	体験活動をおととして、社会的・職業的自立に向けた態度や規範意識を養う。	校内実習やデュアル型現場実習、短期集中型現場実習での働く体験の中から、社会的・職業的自立に必要な態度や規範意識の大切さを学ぶ。	②④⑨⑪		
	家庭や寄宿舎との連携を深め、生徒の実態・課題の共通理解をもち、同じ視点で支援をする。	個別面談、学年便り、学年ブログの発信、日誌の供覧や内容の充実を図り、家庭との連携を密にする。また、寄宿舎のフォーカスターシートを活用し、早期に課題の共有化を図ることで、具体的な支援方法を確認し合って早期解決を行う。	①②③④⑩		
	実態に即した学習をおととして、基礎的学力の定着を図り、達成感や自己肯定感を育てる。	自立活動の視点を各教科に取り入れ、ルーピング、板書や発問の仕方、ワークシートの工夫等、授業内容の充実を図り、自ら考え選択したり、意見を伝えたりする活動を数多く設定した授業を実践する。	①②④⑤⑩		
2年	体調管理や感染症の予防に自主的に努める方法を学び、基本的な生活習慣を維持する中で実践できる。	バランスの良い食事、適度な睡眠・運動を心がけ、健康的な生活習慣を維持できるスキルを学ぶ。手洗い・消毒を含めた衛生管理やパーソナルスペース等のマナーを身に付ける。	①②⑥		
	自己理解力を育て、社会生活・職業生活に必要な知識・技能・態度・規範意識を身に付けることができる。	現場実習や専門教科、ジョブスタディの授業を中心にその他の授業と関連付けながら、自立活動の視点から自己理解を促進する。場面をとらえて支援していくとともに、キャリアパスポートを活用し、自己の振り返りができる機会を持つ。現場実習をおととして、職業適性や課題を確認し、個々に応じた進路指導に努める。	④⑤⑨⑩⑪		
	主体的に課題解決に取り組む態度を育て、社会人として必要な基礎・基本となる学習内容の定着を図る。	学習グループや課題に応じた学習内容・板書や発問、ワークシートの工夫等を実施する。自ら選択したり、意見を述べたりできる活動を取り入れ、主体的な学習を進め、「できた」「やってみよう」という体験を重ねる。	④⑤		
	集団生活における好ましい対人関係を養う。	トーキングタイムを実施し、生徒の心身の状態を把握・職員間で共有し、指導全般に生かす。他の集団(クラス・コース・学年・学校等)との交流や発表の機会をつくる。	①②⑦⑩⑪⑫		
3年	社会自立に向けて生活スキルの向上を図るとともに、社会人として健康的な生活を送ることができる習慣を身に付ける。	休日の過ごし方やバランスの良い食事や適度な運動・睡眠を心掛け、健康的な生活習慣を身に付ける。また、こまめに手洗いや消毒、マスクを正しく着用する習慣を身に付け感染症予防に努める。	①②⑥		
	卒業後の生活をイメージし、働き続けるために必要な知識及び技能・態度を身に付ける。	専門教科、現場実習やジョブスタディの学習をおととして、自己理解を深めながら職業人としての意識を育て、働き続けるための知識や技能、態度を学ぶ機会を設ける。	④⑨⑩		
	自己肯定感や自己有用感を育て、新しいことに積極的に挑戦する態度を養う。	「やってみる」「できた」体験を多く取り入れ、様々な活動を体験させることで新たな挑戦への気持ちを育み、積極的に学習活動に取り組める環境を整える。	④⑤⑦⑫		
	トーキングタイムを定期的実施し、的確な支援を行う。	生徒とテーマを決めずに会話する時間を設け、相談する方法を身に付ける。また、心身の状態を的確に把握して、生徒の抱えた問題を早期に発見し、職員間で情報を共有し支援する。	①②③⑩		